

## 第4学年1組 算数科学習指導案

令和7年9月22日(月) 第3時限 場所 4年1組教室

- 1 単元 式と計算の順じょ(本時5/8)
- 2 本時の目標  
交換、結合、分配法則などの計算のきまりを活用し、計算の工夫を説明することができる。  
(思考力・判断力・表現力等)
- 3 学びを深める子供を育むための手だて(手だて①)  
・計算のきまりを振り返られるように、ノートや掲示物を作成したり、説明しやすいように話型を掲示したりして、問題を解くときに活用する。
- 4 展開 (下線部は本校の研究にかかわる手だて)

| 段階         | 児童の活動   | 教師の活動  |
|------------|---|--|
| 導入<br>(3)  | 1 アとイの問題を出題し、課題をつかむ。<br>・ $82+43+57$ は、 <u>い</u> のきまりかな。<br>・ $25\times 36$ は、どこを工夫するのかな。   | ・本時の見通しがもてるように、今までに学習した計算の順序ときまりを確認する。<br>・学習課題へとつながるよう、工夫して簡単に計算することを伝える。   |
| 課題<br>(1)  | 計算の仕方を工夫して、簡単に計算できる方法を考えよう  |  |
| 展開<br>(36) | 3 P122の1の問題を、計算のきまり(結合法則)を使って考え、チームで話し合う。<br>・ $(\square+\circ)+\triangle=\square+(\circ+\triangle)$ を使います。まず、43と57で100になるから、 $()$ を使って $82+(43+57)$ の計算をします。次に、 $82+100$ を計算して、182になります。<br>・ $(\square\times\circ)\times\triangle=\square\times(\circ\times\triangle)$ を参考にします。まず、100を作るために $25\times 4$ をします。次に、その100に9をかけて、900になります。<br><br>4 2の問題を、計算のきまり(分配法則)を使って考え、チームで話し合う。<br>・ $(\square+\circ)\times\triangle=\square\times\triangle+\circ\times\triangle$ を使います。まず、100のまとまりを作るために、102は、100と2に分けます。次に、100と2のどちらにも、35をかけます。最後に、3500と70を足して、3570になります。<br>・ $(\square-\circ)\times\triangle=\square\times\triangle-\circ\times\triangle$ を使います。まず、100のまとまりを作るために、99に1を足して、 $100\times 53$ を計算します。次に、1を足したから、引かなくてはいけないので、 $1\times 53$ をします。最後に、5300から53を引いて、5247になります。<br><br>5 練習問題を解く。<br>・①と②は、かっこを使って、100を作ると計算しやすいね。<br>・③と④は、25に4をかけて、100を作ると計算しやすいね。<br>・⑤と⑥は、100や1000と残りの数を別々に計算するよ。 | 発問「今まで習ったことを生かして、簡単に計算する方法を見つけて説明しよう」と働きかける。<br>・ <u>計算のきまりを活用できるように、掲示物で既習事項を確認できるように準備する。</u><br>・考えを共有したり、解けない児童の手助けとなったりするように、協働的な学びの場となる、チーム学習の学びの場を設定する。<br>・ <u>どのように計算の工夫をしたのか、説得力のある説明をすることができるように、必要な要素をノートにまとめ、いつでも見られるように用意しておく。</u><br><br>発問「次の問題は、どの計算のきまりを使って計算をすると簡単に計算できるかな」と働きかける。<br>・考えを共有し、協働的な学びの場となるよう、チームで話し合う場を設定する。<br>・困ってるチームには、100のまとまりを作ることが意識できるように、ヒントカードを用意する。<br>・児童が計算の法則を活用し計算ができるように、助言する。<br>・計算の工夫を、論理的に説明できている児童を称賛する。<br>・チーム学習だけでは理解が不十分な場合は、一斉指導の時間をとり、計算の工夫を説明できている児童を意図的に指名し、補足する。<br>・時間が足りない場合は、①③⑤⑦の問題に絞って、練習問題を解くように指示する。<br>・手がとまってしまう児童には、計算のきまりの□、○、△の中に、問題よりも小さな数字の入ったヒントカードを用意しておく。 |

|           |  |   |
|-----------|--|---|
| 整理<br>(5) | <p>・⑦と⑧は、100 や 1000 を作るために、足した数を後から引くと簡単だね。</p> <p>6 本時の振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・計算の順番を入れ替えたり、100 を作ったりして、計算のきまりを使って計算すると、簡単に計算ができるので、便利だと思いました。</p> </div> | <p>発問「めあてにもどりましょう。今日、工夫して計算をしてみて、わかったこと、気づいたことは何ですか」</p> <p>・机間指導を行い、本時の学習課題に対する学びが書けている児童を、意図的に指名する。</p> |
|-----------|--|---|

5 評価

計算の決まりを生かして、(あ) ~ (か) のどのきまりを使い、どのように計算したのか、説得力のある説明をすることができたか。(活動3・4のチーム学習、3~5のノート、発表の様子から)